

中国内陸部における ICBMサイロ建設の状況（1）

第1号

2023年11月20日

[小泉悠](#)

中国が内陸部で建設を進めているとされる4ヶ所のICBM（大陸間弾道ミサイル）基地のうち、ウイグル自治区哈密（ハミ）における建設状況を、合成開口レーダー（SAR）衛星を用いて観測した。

その結果が以下の画像中に示す白い輝点であり、規則性を持ってサイロが建設されていることがわかる。今回の観測では光学衛星画像に基づく先行研究で確認された110ヶ所中、75ヶ所を確認できた。建設作業は2021年初頭から開始されていたとみられ、すでに建設の終わったものについてはSARで明確な反応として現れなかったものと思われる。

他方、SARの電波は一定の透過性を有するため、光学画像では観測できない事象に関してもデータを得られる可能性がある。したがって、ICBMサイロの建設現場に設置される大型エアテントを透過し、その内部におけるサイロ掘削作業やICBM装填作業の実態を観測できるのではないかという仮説に基づき、高分解能モードを用いた建設現場個々の観測も実施した。この点については次号以降であらためて扱うことにした。

撮像条件

- 対象：中国ウイグル自治区哈密におけるICBM基地建設現場
- マップ：中分解能モード（分解能2m）、東西約62km×南北約32km、6回帰（ $14 \times 6 = 84$ 日）
- 期間：2021年11月22日～2022年1月31日（にて1マップ分）
- 黄色枠：テントを対象に光学画像（MAXAR）とSAR画像（高分解能モード）を掲示

中国内陸部 哈密エリア SAR画像による広域マップ (2021/11/22～2022/01/31)

テント（外部）

光学画像

撮像日：2021/10/11

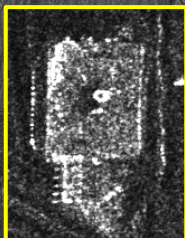
(Image © 2023 Maxar Technologies)



テント（内部）

SAR画像

撮像日：2021/10/20

サポート施設
SAR画像

撮像日：2022/1/12



SAR画像：衛星画像ベンダー提供